

# 日本の大学生のエナジードリンク 飲用傾向とパーソナリティ特性の 関連—Big Five と刺激欲求に 着目した検討—<sup>1)</sup>

吉野伸哉\*・小塩真司\*\*

The Relationships between the Tendency to Consume Energy Drink and Personality Traits in Japanese Undergraduate Students—Big Five and Sensation Seeking—

Shinya YOSHINO\* and Atsushi OSHIO\*\*

The present study examined the relationships between the tendency to consume energy drink and personality traits. The participants were 288 Japanese undergraduates ( $M_{age}=20.15$ ; 207 females). They completed the questionnaire including Big Five personality traits, sensation seeking, and tendency to consume energy drink. Logistic and Poisson regression analyses revealed that the consumption of energy drink was associated positively with Thrill & Adventure and Disinhibition dimensions of the sensation seeking, which is a part of Extraversion. The results imply the psychological characteristics of its consumers.

key words: energy drink, Big Five personality traits, sensation seeking, health

## 問 題

エナジードリンクは、カフェインやアルギニン、糖質を含む清涼飲料水である。近年、若い層を中心に飲用されているが(梅田, 2016; Zucconi et al., 2013)、過度な飲用によって生活や健康に支障が出ることが指摘されている。たとえば、エナジードリンクの飲用頻度が多いほど、薬物乱用や暴力を伴う喧嘩といった問題行動をおこなう傾向にあり(Miller, 2008)、抑うつなど精神的健康との関連も報告されている(Richards & Smith, 2016)。

アルコールやタバコなど依存性の高い嗜好品の摂取傾向と個人の心理特性との関連は頻繁に検討されており(e.g., Malouff, Thorsteinsson, Rooke, & Schutte, 2007)、過剰摂取の予防や対策に寄与している。それに対し、これまでエナジードリンクの飲用傾向は性別や年齢、地域、趣味嗜好などとの関連が示されてきた(梅田, 2016; Zucconi et al., 2013)ものの、パーソナリティ特性などの個人の心理特性との関連を検討した知見は少なく、日本ではまだ見当たらない。

本研究ではエナジードリンクの飲用傾向と Big Five パーソナリティ特性、および刺激欲求傾向との関連を検討することで、習慣的な摂取の背景要因を探る。Big Five パーソナリ

ティ特性は、性格を5つの次元から包括的に捉えることができる概念である。先行研究ではエナジードリンクに含まれるカフェインが刺激欲求と関連することが指摘されており(Jones & Lejeuz, 2005)、また刺激欲求傾向は Big Five 特性のうち外向性の一側面としても位置づけられる(Aluja, Garcia, & Garcia, 2003)。そのためエナジードリンクの飲用は外向性や刺激欲求と関連することが予想される。

## 方 法

### 調査参加者

東京都内の大学に通う300名に対して大学の講義終了後に質問紙調査を実施した。そのうち分析に必要な項目すべてに回答した288名(うち女性207名, 平均年齢20.15歳,  $SD=1.13$ )を分析対象とした。

### 使用尺度・項目

**Big Five 尺度** TIPI-J(小塩・阿部・カトローニ, 2012)を使用した。これは各因子を2項目ずつ(うち1項目は逆転項目)7件法で測定する尺度である。逆転処理後の各因子の合算平均を得点とした。

**刺激欲求尺度** SSS-AE(古澤, 1989)を使用した。これはさまざまな刺激に対する欲求を抽象表現の項目で測定した尺度である。日本語版ではスピードや危険を伴う活動やスポーツに携わろうとするTAS(Thrill & Adventure)、抑制を解き放って刺激的なことを求めるDIS(Disinhibition)、新しい体験や変わった経験をしようとするES(Experience seeking)の3つの下位尺度を想定している。本研究では下位尺度に該当する項目をそれぞれ合算平均した値を用いた。Cronbachの $\alpha$ 係数はTAS, DIS, ESでそれぞれ.82, .67, .82であり、おおむね古澤(1989)と一致した。

**エナジードリンクの飲用傾向** 飲用頻度が7段階で評価された。具体的なワーディングと度数は、「まったく飲まない」( $n=151$ )、「年に1回程度」( $n=31$ )、「年に数回程度」( $n=58$ )、「月に1回程度」( $n=27$ )、「週に1回程度」( $n=13$ )、「週に数回程度」( $n=7$ )、「ほとんど毎日」( $n=1$ )であった。

飲用頻度は「まったく飲まない」が過半数を占めた。パーソナリティ特性と行動の関連を検討する際、行動の頻度とは別に、行動の発現の有無について関連が見られる場合がある(Oshio, 2018)。そのため、本研究では飲用経験の有無を予測する分析と、頻度を予測する分析をそれぞれ実施した。飲用経験の有無を検討する際は、「まったく飲まない」を選択した人を0、それ以外を選択した人を1にコーディングした。頻度を検討する際は、「まったく飲まない」を1とし、1段階ごとに1点ずつ追加した得点を用いた。

## 結 果

Big Five パーソナリティ特性と刺激欲求、エナジードリンクの飲用頻度の相関係数を算出した(Table 1)。エナジードリンクの飲用頻度はTASおよびDISと有意な正の相関を示した。また、刺激欲求の3つの下位尺度は外向性と正の相関を示していた。

パーソナリティ特性からエナジードリンクの飲用経験の有無を予測するため、ロジスティック回帰分析を実施した。年齢と性別(男性=1のダミー変数)を統制し、各Big Five得点を独立変数、飲用経験の有無を従属変数とした。結果、外向性が高いほど飲用経験があることが示された。さらに、刺激欲求尺度の下位尺度を投入したところ外向性の効果は消え、TASとDISが有意な正の相関を示した(Table 2)。

次にエナジードリンクの飲用頻度を予測するため、ポアソン回帰分析を実施した。年齢と性別を統制し、各Big Five得点を独立変数、飲用頻度の得点を従属変数とした。その結果、いずれのBig Five特性とも関連は見られなかった。さらに、

<sup>1)</sup> 本研究の一部は日本パーソナリティ心理学第28回大会で発表された。

\* 早稲田大学大学院文学研究科  
Graduate School of Letters, Arts and Sciences,  
Waseda University, 1-24-1 Toyama, Shinju-ku, Tokyo  
162-8644, Japan

\*\* 早稲田大学文学術院  
Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University,  
1-24-1 Toyama, Shinju-ku, Tokyo 162-8644, Japan

Table 1 Zero-order correlations among the variables

	2	3	4	5	6	7	8	9
1 Extraversion	.02	.20***	-.11	.26***	.36***	.34***	.20***	.04
2 Agreeableness	-	.16**	-.21***	-.01	-.06	.01	-.01	-.03
3 Conscientiousness		-	-.17**	.09	.09	.02	-.06	-.04
4 Neuroticism			-	-.11	-.17**	.05	-.06	.02
5 Openness				-	.33***	.22***	.46***	.02
6 Thrill & Adventure					-	.32***	.41***	.19***
7 Disinhibition						-	.37***	.15**
8 Experience seeking							-	.07
9 Energy Drink								-

Note. \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

Table 2 Results of analysis about tendency to consume energy drink

	Logistic regression analysis				Poisson regression analysis			
	OR	95% CI	OR	95% CI	B	95% CI	B	95% CI
Intercept	0.00*	[0.00, 0.25]	0.00**	[0.00, 0.09]	-0.73	[-2.30, 0.83]	-1.30	[-2.95, 0.34]
age	1.24	[0.98, 1.56]	1.25	[0.99, 1.58]	0.04	[-0.03, 0.11]	0.05	[-0.02, 0.12]
sex	5.68***	[3.15, 10.63]	6.37***	[3.45, 12.28]	0.62***	[0.45, 0.78]	0.63***	[0.46, 0.80]
Extraversion	1.20*	[1.02, 1.43]	1.04	[0.86, 1.26]	0.04	[-0.02, 0.09]	-0.01	[-0.07, 0.05]
Agreeableness	1.11	[0.89, 1.40]	1.17	[0.92, 1.48]	0.03	[-0.04, 0.10]	0.04	[-0.03, 0.11]
Conscientiousness	0.94	[0.76, 1.15]	0.93	[0.75, 1.15]	-0.01	[-0.08, 0.05]	-0.01	[-0.07, 0.06]
Neuroticism	1.06	[0.85, 1.32]	1.11	[0.88, 1.40]	0.03	[-0.04, 0.10]	0.04	[-0.03, 0.11]
Openness	1.04	[0.85, 1.26]	0.96	[0.77, 1.21]	-0.01	[-0.07, 0.05]	-0.04	[-0.11, 0.03]
Thrill & Adventure			1.70**	[1.24, 2.37]			0.13**	[0.03, 0.22]
Disinhibition			1.55*	[1.07, 2.26]			0.12*	[0.01, 0.24]
Experience seeking			0.76	[0.50, 1.16]			0.00	[-0.13, 0.14]

Note. \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

刺激欲求尺度の下位尺度を投入したところ、TASとDISが有意な正の関連を示した (Table 2)。

### 考 察

本研究の結果から、エナジードリンクの飲用傾向はBig Five特性のうち外向性、とりわけ刺激欲求傾向のTASやDISで説明されることが示された。先行研究ではESがカフェイン摂取と関連することが報告されていたが (Jones & Lejuez, 2005)、本研究ではエナジードリンクの飲用との関連は見られなかった。そのためエナジードリンクの飲用傾向は物質的な影響とは異なるプロセスがはたしている可能性がある。たとえば飲む行為そのものに興奮や気分の高揚を期待することで飲用に至るというプロセスが考えられる。この点は今後検証していく必要がある。

また今後の課題として、飲用に関する状況要因の処遇が挙げられる。エナジードリンクを飲む動機として、活動に必要なエネルギーの供給や寝ないためといった理由が挙げられている (Zucconi et al., 2013)。飲用時の状況を考慮することで、パーソナリティ特性から飲用に至るプロセスをより具体的に把握できると考えられる。さらに、大学生以外のサンプルにおける再現性など、関連の普遍性を示していくことも望まれる。

### 引用文献

- Aluja, A., Garcia, O., & Garcia, L. F. 2003 Relationships among extraversion, openness to experience, and sensation seeking. *Personality and Individual Differences*, 35, 671-680.
- 古澤照幸 1989 刺激欲求尺度・抽象表現項目版 (Sensation Seeking Scale-Abstract Expression) 作成の試み 心理学研究, 60, 180-184.

Jones, H. A., & Lejuez, C. W. 2005 Personality correlates of caffeine dependence: the role of sensation seeking, impulsivity, and risk taking. *Experimental and Clinical Psychopharmacology*, 13, 259-266.

Malouff, J. M., Thorsteinsson, E. B., Rooke, S. E., & Schutte, N. S. 2007 Alcohol involvement and the five-factor model of personality: A meta-analysis. *Journal of Drug Education*, 37, 277-294.

Miller, K. E. 2008 Energy drinks, race, and problem behaviors among college students. *Journal of Adolescent Health*, 43, 490-497.

Oshio, A. 2018 Who shake their legs and bite their nails? Self-reported repetitive behaviors and Big Five personality traits. *Psychological Studies*, 63, 384-390.

小塩真司・阿部晋吾・カトローニビノ 2012 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21, 40-52.

Richards, G., & Smith, A. P. 2016 A review of energy drinks and mental health, with a focus on stress, anxiety, and depression. *Journal of Caffeine Research*, 6, 49-63.

梅田悠太 2016 エナジードリンクの摂取がもたらす社会心理学的効果と嗜好品文化への影響 財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告, 136-183.

Zucconi, S., Volpato, C., Adinolfi, F., Gandini, E., Gentile, E., Loi, A., & Fioriti, L. 2013 Gathering consumption data on specific consumer groups of energy drinks. *EFSA Supporting Publications*, 10, 394E.

(受稿：2019.10.28; 受理：2020.1.6)